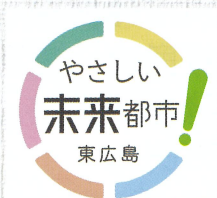


高垣ひろのり 市政通信

vol.9

～やさしい未来都市、東広島～



＜略歴＞

大阪大学工学部卒、中央大学法学部卒
広島県土木局長
サタケ エンジニアリング本部部长
広島県副知事 東広島市長（2期目）
土木学会フェロー、技術士、測量士

有機フッ素化合物に関する要望活動

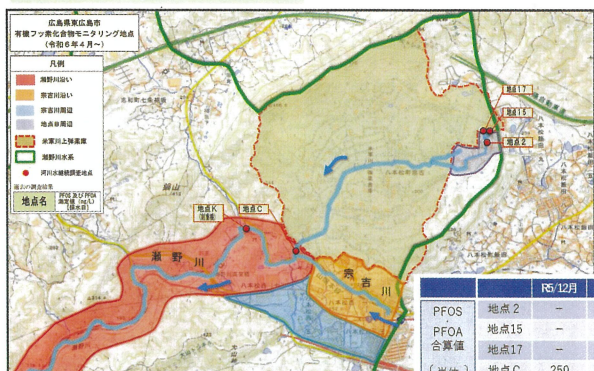
6月4日、瀬野川水系上流域の有機フッ素化合物（PFOS等）の高濃度汚染に対し、国の関係機関に住民の安心・安全のための取組の推進、本市のこれまでの対応への財政的支援等の措置をしていただくよう要望活動をしました。

防衛省は鬼木副大臣に湯崎知事とともに、米軍川上弾薬庫周辺住民の安全・安心のため弾薬庫内の水質・土壌調査の実施と数値の公表等について米軍への働きかけを、環境省には国定政務官に玉井副知事とともに、PFOS等の毒性、健康影響等に関する情報の提供と検出された地域における実態調査の実施等について要望しました。



有機フッ素化合物の継続調査の状況等

河川のモニタリング地点

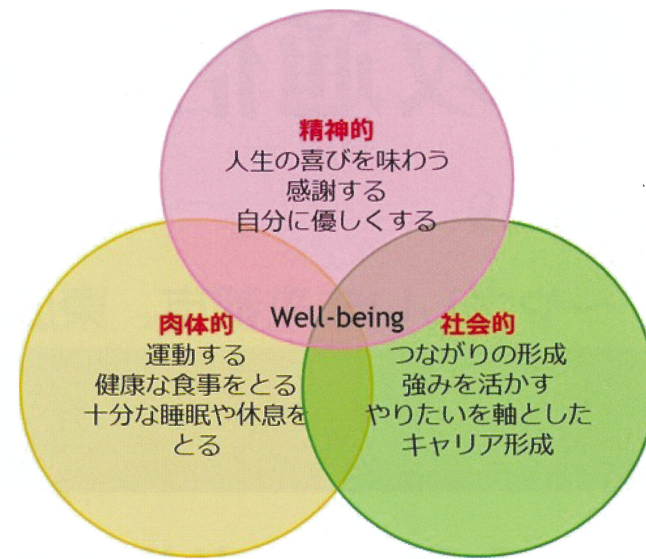


		12月	2月	4月
PFOS	地点2	—	2,700	3,300
PFOA	地点15	—	1,500	3,100
合算値	地点17	—	3,600	3,800
単位	地点C	250	—	240
(ng/L)	地点K	170	—	140

両省とも重大な事案と認識していただいていたしましたが、一日も早い関係住民の皆様の安心・安全の確保に向け引き続き要望が実現するよう働きかけてまいります。

Well-beingと地域共生社会について

最近Well-beingという言葉が行政の中でもよく使われるようになりました。「より良い状態、生活満足度、幸福」といった意味で使われますが、市政の最終的な目標は、市民お一人おひとりのWell-beingの向上を図っていくことだと思っています。このためには、①身体的な健康②精神的な満足③社会的な豊かさが満たされ、その上で、「人間としてよりよく生きる中で生まれる生命の充足感」を感じられるような生き方ができているかどうか問われます。



幸福学の第一人者は、中学・高校時代を広島で過ごされた前野隆司先生（慶応大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）ですが、幸福の4因子を次のように言われています。

- ①「やってみよう」因子 自己実現と成長 強み・主体性
- ②「ありがとう」因子 つながりと感謝 利他・多様性
- ③「なんとかなる」因子 前向きと楽観 チャレンジ精神
- ④「ありのままに」因子 独立と自分らしさ 自分軸

そして幸福度の高い人は、長寿（寿命が7～10年長い）であり幸せは予防医学であると言われる、創造性も3倍高まり、生産性も3割アップするのだそうです。

「生きていることが楽しい」「生きていてよかった」と思っただけのまちづくりのためには、行政としても福祉施策をはじめ生活環境の整備をしていかなければなりません。市民の皆様にも幸福の「4因子」を知っていただき、利他の精神の中で市との協働の取組に積極的に参加していただくことが重要です。

市民の皆様には、人のために役立ちたいというお気持ちを持っていらっしゃる方も多く、東日本大震災や本市も甚大な被害を受けた平成30年7月豪雨災害の時のボランティアの皆さんの行動にその思いを見ることができました。

（下の写真は平成30年7月号災害の土砂撤去の支援をしてくれたボランティアの皆さん



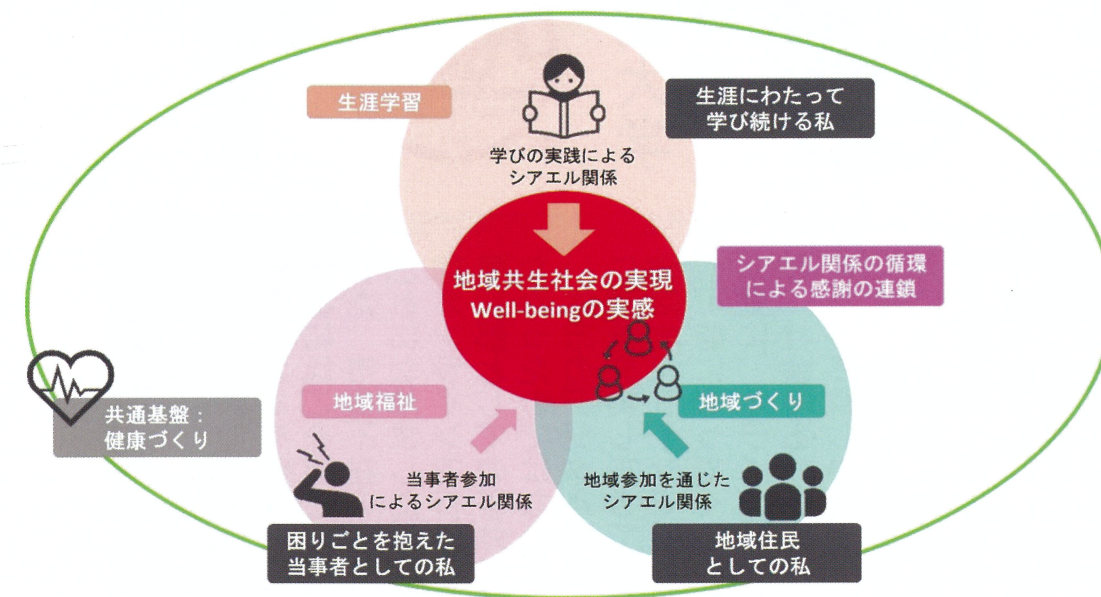
「そこには、かつて地域社会にあった信頼関係やお互い様の精神、人と人とのネットワークなどの、いわゆるソーシャルキャピタルといわれる、共生社会にあった支え合いの精神があります。

残念ながら現在は、人口減少に加え、超高齢化、核家族化、単身化が進み、ソーシャルキャピタルが低下することで、孤独・孤立、家族や地域のセーフティーネットが脆弱となり、従来の仕組みでは解決困難な、様々な社会課題が顕在化してきました。

東広島市は、地域共生社会の実現を目指すことで、こうした問題の包括的な解決を目指したいと考えています。

地域住民や地域の多様な主体が世代や分野を超えてつながり、「支え手」「受け手」という関係を超えて、学び合い、支え合い、感謝し合えるなどの「シアエル関係」を構築することで、主体的な学びと学んだ成果を実践に生かす「生涯学習」、地域住民や市民活動団体等

東広島市が目指す地域共生社会のイメージ図



とのまちづくりである「地域づくり」、困りごとを抱えた当事者の社会参加を進める「地域福祉」の各施策が相乗効果を発揮し、好循環を描くことで市民のWell-beingの向上につなげていきたいと考えています。

令和6年第2回東広島市議会定例会

6月10日から28日までの19日間の会期で行われた定例会も全ての議案を議決いただき終了しました。一般質問では4日間で20名の議員が質問に立たれ、市民の皆様から頂いている要望や課題などをもとに多くの論点で質問を頂きました。不覚にも会期中にコロナウイルスに感染し、テレワークで答弁の協議を行いながら、対応させていただきましたが、論点に対する理解を深めて頂けるようなお答えができたのではないかと考えています。

質問要旨、質問者はこちらをご覧ください。



新たなまちづくりへのチャレンジ

市制施行50周年の今年、本市の今後の発展の礎となる、大学と連携した取り組みが進捗してきました。本市は都市問題、人口の減少が続く中山間地問題など課題が山積していますが、これらの課題をデジタル技術など、今急速な勢いで進展している科学技術で解決できる可能性が大きくなってきています。最新の科学技術や研究資源を活用しながら、社会課題の解決を図っていかこうとする取り組みが、Town&Gown（タウンアンドガウン）です。

自治体（Town）と大学（Gown）がそれぞれの強みである、行政資源と教育・研究資源をお互いに活用しながら地域の発展と大学の進化をもたらすもので、2021年の広島大学、2023年近畿大学工学部、そして今年の4月から広島国際大学との取り組みがスタートしました。

それぞれの大学の特徴を活かしながら、持続可能な解決策を見出し、他の自治体にも参考にしていただけるような取り組みにしていきたいと考えています。



広島大学



近畿大学
工学部



広島国際大学

編集後記

6月議会の対応は、テレワークで対応せざるを得なくなり、関係者の皆様にはご心配とご迷惑をおかけしました。市長不在の本会議一般質問ということになりましたが、答弁審査や協議はオンラインで行うことができ、市執行部としての答弁には影響があまりなかったのではないのでしょうか。

本市のデジタル環境もコロナ禍を機に随分充実してきていますが、将来的にはオンラインで議会参加ということも可能になってくるかもわかりません。更に、オンライン環境が進展していくと、社会のあり様も大きく変わるし、変わって欲しいと思います。

今、豊かな自然環境を有しながらも人口減少が加速的に進んでいる地域で首都圏でやっているような仕事ができるのであれば、都市での生活を選ぶのか中山間地域での新しい価値を見つけ、自然に囲まれた生活を選ぶのかどちらでしょうか。

Town&Gownの取組は、本市の未来の姿としている①「世界に貢献するイノベーション創造のまちと」②「暮らし輝き笑顔あふれる生活価値創造のまち」を実現していくためのものです。この取組みは、地方大学のあるまちの新しい地方創生モデルにしたいと思っています。

高垣ひろのり後援会

所在地／〒739-0041 東広島市西条町寺家6343-3-704
TEL／080-8450-8293 FAX／082-426-5241

公式ホームページ
「高垣ひろのり」

<http://h-takagaki.jp>



高垣ひろのり後援会事務所
(毎週水曜日開所)



所在地／〒739-0043 東広島市西条西本町1332